

「那須の大きな食卓」をコンセプトに、 農・福・観の連携で地域の魅力を発信



生地をつくるミキサー



生地をカットして丸めるオートマスター



丸めた生地を成型するミニモルダー

事業名

農福観の連携で地域社会を変える「バターはいところ」プロジェクト



安価に取り引きされる 脱脂乳に着目

那須の新銘菓「バターはいところ」は、東日本大震災で風評被害を受けた地元・那須を元気にしようと、有志たちが結束して開催したマルシェイベント「那須朝市」に端を発します。

後に、朝市を日常的に楽しめる実店舗として、直売所、飲食店、宿泊が複合した「Chus (チャウス)」がJR黒磯駅前にオープンしますが、ここは持続的な雇用の場を生み出すとともに、若い世代が那須で生業を立て、家庭を持って地域で生活できるモデルケースでもあります。

「那須の大きな食卓」をコンセプトに運営する中で、地域を代表する新銘菓の開発話が持ち上がり、そこで着目したのが

脱脂乳でした。

有志が経営する「森林ノ牧場」は、乳脂肪分の多いジャージー牛を放牧飼育し、小規模で高付加価値を生み出す酪農経営を実践しています。生乳からバターを製造する際、バターになるのは生乳のわずか4%程度で、他の約90%は脱脂乳として安価に取り引きされます。小規模酪農家がバター生産を採算に乗せて事業化するためには、安価な脱脂乳を高付加価値な商品にして販売しなければなりません。

そこで著名なパティシエの監修のもと、脱脂乳を活かして開発された焼き菓子が「バターはいところ」です。当初はChusで製造・販売を行っていましたが、量産体制を整えるために製造に特化した「株式会社バターはいところ」を2018年(平成

30年)に設立しました。

新会社は、就労継続支援A型事業所として障がい者を雇用しています。障がいを持った人に働く場と仕事の喜びを提供し、地元の食材を使った高付加価値商品を一般販売することで、地元の人々、農業生産者、観光客のすべてが幸せになることを目指しているからです。



04 BUTTER ITOKO 90
06 BUTTER ITOKO 90
バターはいところ



店内の様子

生産能力の向上と 安全性確保の両立

以上のようなストーリーから生まれた「バターのいところ」は、おかげさまで売れ行き好調ですが、量産ができないため開店と同時に完売し、品切れになってしまいうことがしばしばです。メディアで取り上げられても生産が追いつかず、せっかくの商機を活かしきれていません。

一方、障がい者(以下、利用者)が働く製造現場に求められることは、第1に作業が標準化されていることです。手順がシンプルで誰がやっても同じようにできることが求められます。

第2に安全な作業環境の確保が欠かせません。例えば、生地の手こね作業に使う既存の機械は、手動で回転数をコン



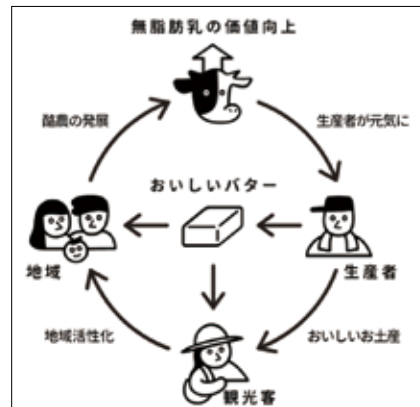
バターのいとこの製造現場

トロールしますが、利用者にとっては勘に頼ったり判断を要する作業は大の苦手です。また、機械に手を巻き込まれる恐れがあるなど安全面でも不安を抱えています。

そこで本事業において、生産性向上と安全性確保の視点から、(1)生地をつくるミキサー、(2)生地をカットして丸めるオートマスター、(3)丸めた生地を成型するミニモルダーを導入しました。

地域社会を変える プロジェクトに発展

製造工程の刷新(一部自動化)によって、これまで約1,000枚/日だった生産量を約3,000枚/日程度まで増やすことができました。同時に、利用者の雇用を



同社が描く循環型のビジネスモデル

増やすことができました。今後さらに効率性を高めていくことで、数カ月後には4,000枚/日を目標にしています。

また、生産能力が向上したことでChusや地元・道の駅などでの販売のほか、ネット通販でも安定的に販売できるようになりました。商圏が拡大することでさらにチャネルが増え、露出の機会も増えてくることから、今後ますますブランド力の強化を図っていきたいと考えています。

「地元・那須を元気にしたい」という思いから始まった取組は、農業・福祉・観光の連携によって、地域社会を変えるプロジェクトに発展しました。



株式会社 バターのいところ



〒325-0303
栃木県那須郡那須町高久乙2905-25
TEL : 0287-62-2100
FAX : 0287-62-2100
URL : <https://butternoitoko.com/>
E-mail : info@butternoitoko.com

【代表者名】 足立康成
【設立年】 2018年10月1日
【資本金額】 50万円
【従業員数】 40名(利用者・パート含む)
【事業内容】 菓子の製造



本事業における気づきと学び



株式会社 バターのいところ 代表取締役 足立 康成

就労継続支援事業所が製造業務を行う際は、生産性の向上と作業環境の安全性確保の視点から、機械化及び自動化は欠かせないと思います。

今回取り組んだ「バターのいところ」プロジェクトは、地域における6次産業化だけでなく、A型事業所において生産性向上を図り、収益に結びつけるモデルケースとして確立できました。

地域に根ざした産業として自立できたのは本事業のおかげで、今後はこうしたプロジェクトをパッケージと捉え、新たな商品開発、新たな事業展開につなげていきたいと思っています。